PCR検査拡充・核廃絶・少人数学級など

ー三浦とおる・岡野長寿が一般質問ー

尾道民報

日本共産党
市議会議員団
週刊議会報告
【発　行】
岡野長寿
090
2095−5792
三浦とおる
090
1019−8791

9月11日共産党市議団が一般質問を行いました。三浦市議はPCR検査の拡充を具体的に、岡野市議は、核兵器禁止条約の批准を政府に求める課題、少人数学級、中学校給食、教科書採択教育委員会議の公開など多彩な論点につき、市長・教育長の姿勢を質しました。

一般質問する三浦とおる市議

PCR検査拡充について

三浦市議は、PCR検査の現状と今後の課題について質問を行ないました。

9月中旬から、実施予定となっている広島県が行なう「新型コロナ唾液検査」が始まった場合、どのような制度になるかを質したのに対して、これまでは保健所の指示でPCR検査を受けていたのが、「唾液検査」では保健所を介さず医師の判断で検査ができる制度になると答えました。医療機関名の名前の公表はしないことになっており、尾三医療圏域では53の医療機関で実施されることが判明しました。

尾道市独自のPCR検査の実施について

尾道市独自のPCR検査の実施を求めたことに対しては、検査体制、医療提供体制などの整備は、県の方針で、県全体で統制のとれた取組が行なわれるべきであると答弁し、市独自のPCR検査を行なう予定はないと答えました。三浦市議は、東京の世田谷区の「いつでもどこでも何度でも」の取組みを紹介して尾道市でも独自で行なうよう提案いたしました。

無症状、軽症の感染者の治療、療養について

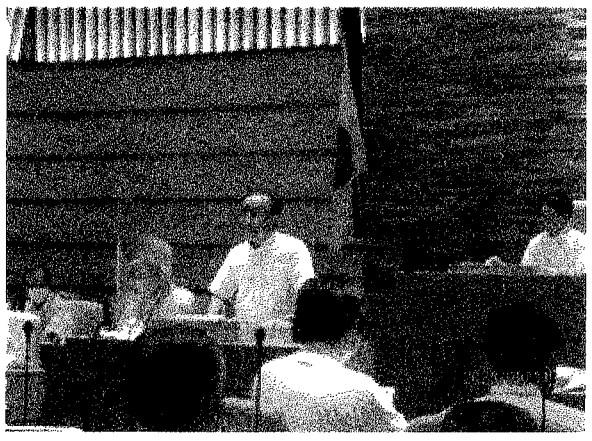
現在、大都市圏を中心に感染が拡大しており、感染者が若年層で無症状や軽症者が多いことから、そうした感染者をどのように治療、療養を行なっていくのかを質しました。理事者の答弁として、県の対策本部で入院、宿泊療養施設の確保、調整を行なっている。現在、295室の宿泊療養施設が確保されているとの説明がありました。

三浦市議は行政には最悪の事態を想定して準備をしていただくよう、理事者に感染拡大防止の手立てを求めました。

核兵器廃絶・新自由主義からの脱却

平谷市長は、「尾道市が加盟する平和首長会議は、核兵器禁止条約の早期締結に向けた国連・各国政府に対する要請と核兵器禁止条約の早期締結を求める署名活動を行っている。引き続き、政府に働きかけていく」と答弁しました。

保健・医療・福祉行政については、「国・県と連携して、地域の実情にも対応しながら、市民生活の安心を実現するため市として果たすべき役割をしっかり取り組んでいきたい」と答弁しました。



一般質問する岡野長寿市議

少人数学級

佐藤教育長は、「教職員定数の改善を国や県に要望している。国・県の考え方が変われば、少人数学級の実施など、子どもたちにとってよりよい環境が整う。コロナのリスクが長期化する可能性もあり、少人数学級の在り方については研究していく」と答弁しました。

特別教室・体育館へのエアコン設置

佐藤教育長は「エアコン設置については、理科教室などから順次行えるよう検討したい」「体育館については設置費用などの財政負担が大きいことから難しい。大型冷風扇の活用など研究する」と答弁しました。

岡野市議は「少人数学級もエアコン設置も、気象変動と感染症から子どもたちを守る緊急課題である」と指摘し、対応を急ぐよう促しました。

中学校給食

佐藤教育長は「コロナの関係でコンサルタントの現地調査が遅れている。年内に（計画が）完了するよう進める」と答弁。

岡野市議は「浦崎中の次はどの学校がいつできるか、最後はどの学校でいつか」と具体的に再質問。

担当部長が、「5年〜10年」と答えたのに対し、「それでは遅すぎる。少なくとも3年以内にやるべき。給食センター更新計画とは切り離して速度を早めるよう指摘しました。（続きは、文教委員会で）

教科書選定会議の公開

佐藤教育長は「教科書採択については、公正性、透明性が求められる」と言いながら、「公開・非公開は教育委員会で決定している」と言うだけで理由を明示しない逃げの答弁。

岡野市議は、「知る権利は優越的権利で民主政を担保するもの。公開することで他の利益が失われる明白な危険が無ければ制限できない。非公開は違法となるおそれがある」と再度公開を求めました。

土堂小の耐震化

佐藤教育長は、「千光寺公園グラウンドの仮校舎移転の見通しがつけば、改めて方針を提案する」と答弁。

地域住民がポスターをつくって現地耐震化を求めていることは意に介さないかのような答弁を行いました。

岡野市議は「これではいつまでも宙ぶらりん、耐震化は遠のくと市教委の姿勢を批判しました。

橋代軽減については従来の答弁の繰り返し